

問1 現在の東北地方における稲作の状況について、米の消費量の減少や生産調整（減反）といった社会的背景を踏まえた説明として、正しいものはどれですか。（2017年 兵庫公立入試 類似）

1. 消費者の志向に合わせて、地域ごとに独自の銘柄米を開発・ブランド化し、付加価値を高めている。
2. 米の価格競争に勝つために、品種改良を止めて、手間のかからない古い品種の大量生産に戻している。
3. 冷害を完全に克服したため、現在は生産調整を行わず、全ての田で無制限に米を生産している。
4. やませが吹く年は米が豊作になる傾向があるため、気象予報に合わせて生産量を調整している。

問2 日本の各地域における農業産出額の品目別割合を比較したとき、米の割合が約35%に達し、提示された他の地域と比べて米の比率が極めて高いという特徴を持つ地域はどこですか。（2016年 岩手県公立入試 類似）

1. 東北地方
2. 九州地方
3. 関東地方
4. 近畿地方

問3 東北地方では、各県の気候や地形条件を活かして特定の農産物を重点的に生産する農業が盛んです。青森県のりんご、山形県のさくらんぼ、福島県の桃などの生産がその代表例ですが、このような農業の特色について述べた説明として正しいものはどれですか。（2020年 福島県公立入試 類似）

1. 各県が特定の果樹を重点的に栽培することで、県全体の農産物栽培面積においても大きな割合を占めている。
2. 冷害の影響を避けるために、東北全域の農地において米から麦類への転換が一斉に進められた。
3. すべての県が同じ種類の野菜を均等に生産することで、東北地方全体での市場価格の安定を図っている。
4. 広大な平野部を利用し、果樹よりも稲作の面積割合をすべての県で一律に高める政策がとられている。

問4 山形県や福島県の内陸部に位置する盆地の農業について、地形の特色と結びつけた説明として最も適切なものはどれですか。

（2024年 宮城県公立入試 類似）

1. 山に囲まれた低地特有の水はけの良さを活かして、さくらんぼやももなどの栽培が盛んである
2. 広大な平坦な土地と豊かな水を活かして、日本有数の米の単作地帯となっている
3. 標高が高く夏でも涼しい気候を活かして、キャベツやレタスなどの高原野菜が栽培されている
4. 海岸沿いの平野部で、冬の温暖な気候を利用したビニールハウスによる促成栽培が行われている

問5 北海道東部の根釧台地は、夏でも気温が上がりにくく霧が発生しやすい気候条件や、火山灰に覆われた土地という特徴があります。このような自然環境を活かして、この地域で最も盛んに行われている産業の説明として正しいものはどれですか。（2026年 茨城公立入試 類似）

（2026年 茨城公立入試 類似）

1. 広大な土地に牧草を整備し、乳牛を飼育して生乳を生産する酪農が盛んに行われている。
2. 大規模な機械化によって、ジャガイモや小麦、甜菜（てんさい）などを生産する畑作が中心となっている。
3. 泥炭地を客土（他の場所から土を運び入れること）によって改良し、大規模な水田による稲作が行われている。
4. 冬の寒さを活かしたビニールハウス栽培が行われ、夏に都市部へ出荷する抑制栽培が発達している。

問6 東北地方の内陸部に見られる、周囲を山々に囲まれた低地のことを何と呼びますか。この地形は水はけが良く、さくらんぼやももなどの果樹栽培に利用されているのが特徴です。（2024年 宮城県公立入試 類似）

1. 盆地
2. 台地
3. 平野
4. 高原

問7 本州の最北端に位置する青森県と、北海道との間を隔てている海峡は、日本海と太平洋を結ぶ重要な水域となっています。この海峡の名称として正しいものを、次のうちから選びなさい。（2024年 福島県公立入試 類似）

1. 津軽海峡
2. 宗谷海峡
3. 対馬海峡
4. 関門海峡

問8 日本の諸地域における「畜産」「米」「野菜」の農業生産額の割合を比較した統計において、他の地域と比較して「米」の占める割合が圧倒的に高く、生産額全体の半分以上を占めている地域として最も適切なものはどれですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）

1. 東北地方
2. 中部地方
3. 中国・四国地方
4. 関東地方

問9 夏の東北地方において、オホーツク海高気圧から太平洋側に吹き込み、奥羽山脈の東側で気温が上がらなくなる原因となる冷たく湿った風を何といいますか。（2020年 北海道公立入試 類似）

1. やませ
2. からっ風
3. フェーン現象
4. モンスーン

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 消費者の志向に合わせて、地域ごとに独自の銘柄米を開発・ブランド化し、付加価値を高めている。	全国的な米余りや食生活の変化により、米の生産調整が行われる中、東北地方の各県では「つや姫」や「青天の霹靂」などのように、厳しい品質管理のもとでブランド化を図る動きが強まっています。これは、冷害対策としての品種改良で培った技術を、市場競争に勝つための「美味しさ」や「品質」の向上に転換した結果といえます。なお、やませは冷害の原因であり、豊作をもたらすものではありません。
問2	<b>答え 1</b> 東北地方	日本の「穀倉地帯」と呼ばれる東北地方は、広大な平野を活用した稲作が盛んです。農業産出額の構成において、全国平均と比較しても米の占める割合が高いのが最大の特徴です。一方で、九州地方は畜産の割合が、関東地方は近郊農業の影響で野菜の割合が高くなる傾向にあります。
問3	<b>答え 1</b> 各県が特定の果樹を重点的に栽培することで、県全体の農産物栽培面積においても大きな割合を占めている。	東北地方の農業は「米どころ」として知られる稲作だけでなく、果樹栽培も非常に盛んです。特に青森県、山形県、福島県では、それぞれの地域の環境に適した特定の果樹（りんご、さくらんぼ、桃など）を重点的に生産することでブランド化を図っており、それぞれの県の農産物栽培面積において、それら果樹が占める割合が他の県に比べて高いというデータ上の特徴が見られます。
問4	<b>答え 1</b> 山に囲まれた低地特有の水はけの良さを活かして、さくらんぼやももなどの栽培が盛んである	山形盆地や福島盆地といった東北地方の盆地では、その地形的特徴から、さくらんぼ（山形県が生産量日本一）やももなどの果樹栽培が非常に盛んです。盆地の縁の部分には扇状地などの水はけの良い土地が広がっており、これが果樹栽培に適した条件となっています。選択肢にある米の単作は庄内平野などの平野部、高原野菜は奥羽山脈などの高地、促成栽培は高知県や宮崎県などの太平洋側の温暖な地域の特徴です。
問5	<b>答え 1</b> 広大な土地に牧草地を整備し、乳牛を飼育して生乳を生産する酪農が盛んに行われている。	根釧台地は冷涼な気候と火山灰土壌のため、稲作や一般的な畑作には不向きですが、牧草の生育には適しています。そのため、広大な土地を利用した大規模な酪農が発達しました。十勝平野で行われている大規模な畑作との違いを理解しておくことが重要です。
問6	<b>答え 1</b> 盆地	内陸部において周囲を山に囲まれた低地を「盆地」と言います。東北地方では山形盆地や福島盆地が代表的です。これらの地域は、山から流れる河川によって運ばれた土砂が堆積してできた扇状地などが発達しており、水はけが非常に良いため、米作りよりも果樹栽培に適しています。
問7	<b>答え 1</b> 津軽海峡	青森県と北海道の間に位置し、日本海側と太平洋側の海域を繋ぐ役割を果たしています。北海道と本州を隔てる境界であるとともに、その地下には両地域を鉄道で結ぶ青函トンネルが建設されており、日本の交通網における重要な拠点となっています。
問8	<b>答え 1</b> 東北地方	東北地方は「日本の穀倉地帯」とも呼ばれ、広大な平野や盆地を利用した大規模な稲作が盛んな地域です。統計上、他の地域では畜産や野菜の割合が一定数あるのに対し、東北地方は米の生産額が占める割合が突出して高いという特徴があります。これに対し、関東地方は都市近郊農業による野菜、北海道や九州地方は大規模な畜産の割合が比較的高い傾向にあります。
問9	<b>答え 1</b> やませ	この風は北東の海から吹き込み、冷たく湿った空気を運んできます。東北地方を南北に走る奥羽山脈に遮られることで太平洋側の地域に留まりやすく、夏でも気温が上がらない原因となります。冬に関東地方などで吹く「からっ風」や、山を越えた風が高温になる「フェーン現象」とは異なる特徴を持ちます。